

# 東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～  
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体  
発行責任者 尾崎 朋子  
文 責 佐々木正道  
発行日 平成30年9月28日

## 当たり前前日常であることの幸せ

校長 尾崎 朋子

9月14日に開催された学校祭は、地震による停電で臨休を余儀なくされるなど、限られた準備期間での開催となりましたが、生徒達はスローガンの通り、新たな1ページを開く学校祭にしようとして全力で取り組んでくれました。おかげをもちまして、無事学校祭を開催することができ、生徒達にとって、思い出深い1日になったことと思います。当日はお忙しい中、多くの保護者や地域の皆様にご来校いただき、温かい励ましやPTAの事業等にご協力をいただきましたことに心から感謝いたします。

さて、1週間の間に台風と地震の両方がやってくるという災害に見舞われ、使いたい時に使いたいだけ水や電気が使えることが当たり前だった日常が一瞬にしてなくなりました。

私達はとても便利な時代に生きています。今回のことで、その恩恵の大きさを実感すると同時に、人と人との関わりや思いやりの大切さを感じた人も少なくなかったのではないのでしょうか。信号が消えた交差点では、ほとんどの車がお互いに譲り合いながら安全を考えて通行していました。また、隣近所声をかけ合って、不安なことはないか、足りないものはないか助け合うこともあったのではないかと思います。札幌では、ツイッターを通じた呼びかけに応じた中学生や高校生が、断水した高層住宅で、停電でエレベーターが動かない中、階段を使って給水袋を運び、高齢者など住民の危機を救ったということもありました。

2年前、吹雪で新千歳空港が閉鎖された時、飛行機が飛ばないどころか飛行場の外にも出られず、私は空港で1泊しなければなりませんでした。配布された毛布はとうになく、仕方なく荷物の中からバスタオルを出して床に横になっていると、近くにいた男性が毛布を1枚分けてくれました。こういう時のこのような行為は本当にうれしく、ありがたいものです。

私達は時折「何も変わったことがなくてつまらない」「何かいつもと違うことはないだろうか」などということを感じたり口にすることがあります。でも、何か特別なことがなくても、平凡と思われる毎日が滞ることなく続くということが

実はとても尊いことなのではないかということ、今回のことで深く実感しました。

被災した方がTVのインタビューで「早く普通を取り戻したい」と話していました。普通であることや当たり前であることを維持することが、実は一番大変なのかもしれません。「当たり前」であることの幸せを感じながら、日々を大切に生きていたいと思う今日この頃です。

